

佐世保工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	イノベーション創成Ⅳ	
科目基礎情報							
科目番号		0048		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		演習		単位の種別と単位数		学修単位: 4	
開設学科		複合工学専攻		対象学年		専2	
開設期		集中		週時間数			
教科書/教材							
担当教員		猪原 武士					
到達目標							
1. 異国で情報を収集・整理・分析し、それを元に自ら考え決断し、実行することができる。 2. 多様な人々と共に生きるための実践的な言語能力を身につける。 3. 訪問先の人々との協同体験を通して、異文化を理解し協力関係を築くことができる。 4. 海外の訪問先で学んだ経験や知識を総括し、自分の将来を展望することができる。 5. 海外で学んだ体験を、多様な媒体を使いながら人々に伝えることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
異国で情報を収集・整理・分析し、それを元に自ら考え決断し、実行することができる。		十分にできる。		ある程度できる。		できない。	
多様な人々と共に生きるための実践的な言語能力を身につける。		十分にできる。		ある程度できる。		できない。	
訪問先の人々との協同体験を通して、異文化を理解し協力関係を築くことができる。		十分にできる。		ある程度できる。		できない。	
海外の訪問先で学んだ経験や知識を総括し、自分の将来を展望することができる。		十分にできる。		ある程度できる。		できない。	
海外で学んだ体験を、多様な媒体を使いながら人々に伝えることができる。		十分にできる。		ある程度できる。		できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		海外の学校や企業、その他の組織等において、多国籍からなる集団で活動する能力を、他機関や自らが企画した活動を通して学ぶ実践的な授業である。					
授業の進め方・方法		【研修準備】自分で収集した情報を元に、研修の目標と計画を立てる。 【研修の実施】海外の訪問先に渡航し、交流やインターンシップ等の活動を実施する。現地での状況変化に対応しながら、目標の達成を目指す。 【総括】研修の過程と成果を総括し、報告する。					
注意点		履修に関する注意：同一学年においてはイノベーション創成Ⅲまたはイノベーション創成Ⅳいずれかのみ認定可能とする。 評価方法： 評価は、学生から提出される「EDGE活動報告書」（５０点；評価項目①～⑤）および「動画資料等を用いた報告会」（５０点；（評価項目⑥、⑦））を基に、下記に示す７項目を５段階の評価基準により評価し、６０点以上を認定とする。 評価項目は次の通りである。①活動の背景・関連分野を調査し、活動の目的・意義・到達目標をよく理解しているか。 ②活動記録（日誌等）を確実に残し、自主的にまた長期間継続的に活動できたか。③指導・支援を行う教員や機関との連携（活動の経過および成果についての協議・討論等）を十分に行なったか。④活動目標に対して十分な達成が得られ、論理的に記述した報告書が作成されたか。⑤活動成果の質・量は充実しているか。⑥発表資料はよく整理され、充実しているか。活動内容が分り易く説明されているか。⑦適切な質疑応答がなされているか。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	研修計画の策定		収集した情報を元に研修計画を立てることができる。		
		2週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		3週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		4週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		5週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		6週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		7週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		8週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
	2ndQ	9週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		10週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		11週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		

後期		12週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		13週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		14週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		15週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		16週		
	3rdQ	1週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		2週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		3週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		4週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		5週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		6週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		7週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		8週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
	4thQ	9週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		10週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		11週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		12週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		13週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		14週	報告書の作成	研修の過程と成果を報告書に総括することができる。
		15週	報告会の実施	研修の過程と成果を効果的に説明することができる。
		16週		
評価割合				
	報告書	報告会におけるプレゼンテーションと資料	合計	
総合評価割合	50	50	100	
基礎・専門的能力	25	25	50	
分野横断的能力	25	25	50	